

僕と日本語とアイデンティティ (revised)

僕と日本語とアイデンティティ

僕が日本語を勉強し始めてから、既に四年間が過ぎ、僕はもう日本語の素人ではなく、「数、日本語が喋れるか。」と聞かれると自慢げに「はい」と答えられる人達のグループにいる自信がある。だが、僕が話す日本語は同様に四年間日本語を勉強した他の人の日本語と同じだとは言えないと思う。僕の日本語には単純な言語以上に、僕の特別なアイデンティティが入っているからだ。僕の日本語は僕の出身や趣味や専門と深く関係していると思う。

まずは僕の出身と僕の日本語の関係の益から始める。僕の出身は中国江蘇省の常州市 [YT4]だ。勿論、母語は中国語だ。日本語には、大昔から、中国語の漢字が大量に入っているため、たとえ漢字の形が変わったとしても、80%くらいの漢字を見たらすぐ意味が分かるのだ。そのせいで、僕の漢字の勉強は英語が母語のクラスメイトのより何倍も速い。その上、二十世紀初期、日本に留学した中国の学者は、大量の現代科学に関する言葉を中国に輸入した。そのため、「化学」や「心理学」や「民主」や「改革」などの現代的な言葉は、僕が子供の頃から覚えている言葉と読み方に微少な差がある以外は、意味などは寸分違わない。その原因で、僕は漢字を使用する言葉をよく使うのだ。同じ原因で、僕が英語を話すとしても、カタカナはあまり使わない。

出身と同様、僕の趣味は僕の日本語に深い影響を与えている。趣味というとても広いイメージがあるかもしれないが、本当に話したいのはアニメだけだ。最初は確かに日本語をもっとよく覚えるためにアニメを見始めたが、今はもう「誰が先か、卵が先か」という問題になってしまったのだ。僕はアニメから多くの言葉や文句や文化やネタやギャグを覚えしてきた。例えば、最近のアニメ「ANOTHER」から「騙されたと思って食べなさい」という決まり文句を覚えた。そしていろいろなアニメから、日本の文化祭や、日本人が海で何をするかなどどどんな感じが少なくも分かってきた。一番感謝したいのはアニメに出てくるネタとギャグだ。日本風にシリアス (仮面ライダー) や、1.アノキヤは仮面がシリアス感を出すアノキヤ (仮面ライダー)

Figure 5.4 Xun's blog entry (6 April 2012)